

一般質問

黒羽刑務所統廃合
について



深澤 賢市 議員

中学生のレジリエンス(精神的
回復力、抵抗力)を高める教育
プログラムの導入について



星 雅人 議員

質問…黒羽刑務所の移転廃止の工程はどうなっているのか問う。

答弁…黒羽刑務所は、昭和46年4月に創設され、以来47年を経過しております。施設の老朽化や全国的な受刑者の減少等の理由に伴い、平成34年3月末で廃止すると法務省が発表したところでありますが、廃止に至るまでの詳細な工程については公表されておりません。

質問…市にとって今回の黒羽刑務所の移転の統廃合等はそのような影響がでると思うか問う。

答弁…市にとっての財政面や人口減少への影響については、現在黒羽刑務所の受刑者は、約1300名であり、廃止に向けて段階的に移ると考えられますので、平成37年国勢調査の対象人口は減少することになります。財政面に及ぼす影響は、試算

ですが、普通交付税1億円から1億5000万円程度の減少、市民税で4000万円弱の減少が将来発生するのではないかと考えます。刑務所の敷地面積は約二十ヘクタールであります。市としては今後さまざまな機会を捉えながら地域の活性化に寄与する跡地利用について、特に企業誘致等で国に要望していきます。

質問…昨年12月20日下野新聞に「中学生 心の健康支援」という記事が載りました。国際医療福祉大学の藤田京子准教授が中学生向けのメンタルヘルス教育プログラムを開発されたという記事です。大田原市、宇都宮市、下野市各市の中学2年生2000人超に行ったアンケートで、10%超の生徒が妄想や幻覚などの症状を体験しており、早期対

応の必要性が確認されたと書かれています。そこで、ストレスマネジメント教育のプログラムを導入してはどうかと考えますが、市の考えを伺います。

答弁…ストレスマネジメント教育は、各中学校で定期の教育相談や随時相談、チャンス相談など生徒の実態に応じた教育相談体制を構築し対応しています。スクールカウンセラーがストレ

スチエックや講話を行うなど、工夫した取り組みをしています。生徒が抱える悩みの解決については学習指導要領で中学1年生の保健体育の時間に学びます。学級活動の時間にも悩みの解決やストレスとの付き合い方を学習します。今後ストレスマネジメント教育については、国際医療福祉大学の指導を仰ぎ前向きに取り組むたいと考えています。